



3月28日付のリリースの続報です。

年長児の逆上がり成功率100%！ 95.6%連続は44%超 ■未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクト奏功し、 開始からわずか5か月で劇的成長

運動が得意な子も苦手な子もみんな「やればできる」自信付け、新1年生へ。
チャレンジする心と体力を育む保育所事業、結実

ミライヒーロー
◎未来挑戦隊チャレンジャー育成中

写真	撮影 - 可 写真 - 有
事業主体	京都府宇治田原町
担当職員	ふるさと納税総合プロデューサー 勝谷聡 ☎0774-88-6632 (企画財政課企画政策係長) 町立保育所 山下愛子所長 ☎0774-88-6611 (*保育業務のため問合せ窓口は勝谷が対応させていただきます)

ふるさと納税を活用して取り組んでいる「未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクト」。この一環として令和2年度に取り組んだ「保育所体づくりデ茶レンジャー育成事業」が、子どもたちの可能性を大きく広げています。

同事業では、2020年11月から町立保育所「あゆみのその」で日常にサーキット遊びを導入。

小学1年生で逆上がりできる児童は学習前で2割程度(小学校教諭談)ですが、入学前の同園年長児は2021年3月30日時点で、45人全員が逆上がりできるようになりました。

1年前、年中のとき1人しか逆上がりできない園児達が劇的な成長を遂げました。担任の神田先生は「逆上りは成長の数値結果の一つに過ぎず、観察力や共感力、判断力とともに、成長の喜びを実感することで自発的に挑戦する意欲的な心が育まれている」と話します。子ども達は4月から希望を胸に新1年生に。この成長をきっかけに、どんなミライヒーローに成長していくのか。その未来に期待が膨らんでいます。

宇治田原町では、2021年度も子ども達の夢を応援するユニークなプロジェクトを展開していきます。

■毎朝15分のサーキット遊びで明日を生きるカアップへ

サーキット遊び(運動)は、雲梯(うんてい)や高さの異なる鉄棒3台、平均台をコースのように設置し



て、個々の能力に合った、さまざまな動きを組み合わせる周回していきます。これを、毎朝 15 分、3 歳から 5 歳児が年齢ごとに集団で行います（2 歳以下の園児も一回り小さい器具で）。



逆上りする感覚を無理なく体が覚えていきます。年長クラスの田中尊くんは「(補助の)鉄棒に足をかけたら回れるようになって、何度もしていると、(補助の)鉄棒無しでも回れるようになった」と話します。



バランス感覚ととっさの時の判断力が備わっていると、大げさを回避できるように。



平均台を渡り終えたゴール地点で待っているお友達とタッチ。コミュニケーション力が自然と身に付きます。



お友達とタッチしたらダッシュで戻る。必ず二人一組になるため、ここは競争。



2 歳児クラスは人口芝の上でぶら下がり。

何より子ども達は楽しみ、互いに触れ合いながら、どんどん自分でチャレンジしていきますので、連続逆上り（2 回目以降は空中後ろ回り）も、年長児の 44.2%(19/45)ができるようになっています。前半で神田先生が述べた「数字で評価できない力」の高まりは、子ども達の明日を生きる力につながっていると考えています。



逆上りしても鉄棒に捕まり体を浮かしたままキープ。これができると、このまま後ろ回りが連続でできるように。

(参考)

- 現年長児の成長（逆上り成功率）=2018 年度(年少):0%(0/38)、2019 年度(年中):2.3%(1/44)、2020 年度:100.0%(45/45)
- 各年度の年長児の逆上り成功率 2018 年度:14.3%(5/35)、2019 年度:38.9%(21/54)、2020 年度:100.0%(45/45)

■ 事業のきっかけ

事業は、ふるさと納税担当がふるさと納税の使い道として、小さなまちだからこそできる飛び抜けた取組をできないかと、保育所職員に先進事業の紹介とともに打診したのがきっかけ。保育所職員たちが、安心安全な保育を大前提としながら、限られた時間・場所・職員で、子どもたちの可能性を広げる取組について、熟慮を重ねた結果、このサーキット遊びの導入に至りました。

■ 成長のヒケツ = 子ども達のやる気 × 先生達の愛情

保育所の先生達はサーキット遊び時には、その子どもに合ったやる気を引き出す効果的な声かけに取り組んできました。例えば、鉄棒で、首が出るまで懸垂できたら「〇〇ちゃん金メダル」など。「子ども達の頑張りはもちろんですが、保育の最前線で毎日子どもたちと向き合ってきた先生方の愛情と熱意がマッチした結果だと思います（ふるさと納税総合プロデューサー：勝谷聡一）」



その子どもに合った、やる気を引き出す魔法の言葉をかける保育所の先生。

■ ここにしかないふるさと納税の取組でまちの変化へ

宇治田原町は、いわゆる人気返礼品の魚介・肉類がない自治体にもかかわらず、これまで独自の角度の取組（ここにしかない視点、シビックプライド醸成、ストーリー性、「きふと、」（*）など）やその発信が奏功し、寄附額インパクトでは府内上位に位置しています。* 自分のためでなく誰かのためのふるさと納税返礼品。自治体と(株)トラストバンクが連携するプロジェクト。

また同町へのふるさと納税は全額、未来を担う子どもたちのために。この使い道にもストーリー性を持たせ、「未来挑戦隊チャ（茶）レンジャー育成プロジェクト」と銘打ち活用を進めています。

- ふるさと納税サイト【特集】緑茶発祥の地、京都・宇治田原町 ―「まちの劇的变化」へ弱小自治体の挑戦―

URL:https://www.furusato-tax.jp/feature/detail/26344/4999?city-product_original

サーキット遊びのような取組を、さまざまな分野で展開できれば、小さなまちだからこそ、子どもたちの未来の姿を大きく変えられると考えています。

■ 2021 年度も子ども達の夢を応援する遊び心と本質を捉えた事業に挑戦

2021 年度も、論理的思考力や創造力を養う「やる気スイッチオン事業（プログラミング教室や人気クリエイターによる講座等）」や、フィンランド教育の第 1 人者を招いた「子育てセミナー『読解力を高める（絵）本の読み方』」の開催など、個性的な「未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクト」を実施予定です。子どもたちの夢を応援する事業に積極的に投資し、新たなストーリーを生む、ミライヒーローを輩出できるような事業展開に挑戦していきます。



プロジェクト名「未来挑戦隊チャレンジャー」の元となっている、シティプロモーション用ポスター（R 元年作成）。

実際の園児が、将来なりたい夢の姿＝ヒーローに変身している。移住プロモーションの一環として制作。ポスター作成にあたっては当時の年長クラスの全ての子ども達に「将来なりたい職業、夢」をインタビュー。ポスター上でその想いをカタチに。夢の実現を後押ししたい、そういうまちでありたい、という思いを込めている。

未来挑戦隊チャレンジャー育成プロジェクトや保育所体づくり茶レンジャー育成事業では、この思いを事業実施というカタチにした。